

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 273-0048

所在地 千葉県船橋市丸山2丁目10番15号

評価機関名 NPO法人 ヒューマン・ネットワーク

認証評価機関番号

機構 06 - 163

電話番号 047-404-6300

代表者氏名 吉谷 健二

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H0306095
	②		福祉	H1801012
	③		福祉	H2201007
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	Gakkenほいくえん 浜田山			
事業所連絡先	〒	168-0065		
	所在地	東京都杉並区浜田山3-18-8 ケイワンビル1階		
	TEL	03-5305-6133		
事業所代表者氏名	園長 田邊 玲子			
契約日	2023 年 6 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023 年 9 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2023 年 10 月 10 日			
自己評価の調査票配付日	2023 年 6 月 30 日			
自己評価結果報告日	2023 年 10 月 10 日			
訪問調査日	2023 年 10 月 17 日			
評価合議日	2023 年 10 月 18 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事業所が目指している理念や目標をどのように実現しているのか、そのプロセスを組織運営の専門家と現場を熟知した評価者が丁寧に確認し、公正・公平に評価した。利用者調査は案内文を事業所から配布して頂き、Webを活用して評価機関に直接送って頂いた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名 代表取締役 山崎 知恵

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>【学研グループ企業理念】 すべての人が心ゆたかに生きることを願い 今日の感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します</p> <p>【保育理念】 育ちのチカラが輝く、心ゆたかな未来をつむぐ</p> <p>【保育方針】 ・子どもが愛されている実感を持ち、他者との関わりを楽しめる場を創出します ・子どもの“やりたい”にことごとん寄り添い、「好き」を探求する時間を大切にします ・それぞれのご家庭の子育てパートナーとして、喜びと感動を共有します ・人と人、人と場をつなげ、学び合い、育ち合える関係を構築します</p> <p>【保育目標】 ・しなやかな心を持ち、思考し行動する ・自分に自信を持ち、想いや考えを伝える ・友達を大切にし、共に創造することを楽しむ ・周りとの関わり、さまざまな違いを認め、尊重し合う</p> <p>【保育に対する考え方】 Gakkenほいくえんは、すべての子どもが生まれながらに持っている「育ちのチカラ」を輝かせる保育を行っています。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>1)コミュニケーション能力の高い人材 相手の意見を聞く力と理解する姿勢、また自分の考えや意見を相手にわかりやすく伝える工夫ができる人材</p> <p>2)成功・達成させる信念を持っている人材 信念をもって自分はどう行動すべきか、他の職員とどう協力していくべきかを考えて仕事が進められる人材</p> <p>3)責任感のある人材 自らの役割を理解し、責任をもって仕事を完結できる人材 専門性と人間性(倫理感)を常に学ぶ姿勢がある人材</p> <p>4)多様性を認めるができる人材 ワンチームとなって、お互いを助け合っていける環境づくり</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>1. 大切な子どもの命をお預かりしていることを常に意識し、行動してほしい</p> <p>2. 乳幼児期の人間形成において、大切な育ちの時期であることを認識し、それぞれの発達に合わせた保育計画や内容を立て、状況に合わせた対応してほしい</p> <p>3. 温かい心で子どもの気持ちに寄り添い、子どもが自発的で主体的に遊びこめる環境を考えて保育にあたってほしい</p> <p>4. 多様性を認め、お互いが思いやりと支え合える関係を構築してほしい</p> <p>5. 前向きで素直な心を忘れずに行動し、先を開いていく力をつけてほしい</p>

調査対象	全園児の保護者を調査対象とした。(兄弟・姉妹で利用している場合は一世帯一人として回答をお願いした)		
調査方法	アンケート方式で実施した。保育所より保護者に案内文を配布して頂き、アンケートはWebを活用し匿名で評価機関に直接送信して頂いた。		
利用者総数		19	
利用者家族総数(世帯)		15	
共通評価項目による調査対象者数		15	
共通評価項目による調査の有効回答者数		13	
利用者家族総数に対する回答者割合(%)		86.7	

利用者調査全体のコメント

保護者アンケート集計結果では総合満足の回答として「大変満足」54%「満足」46%であり、満足以上の回答計が100%と大変高い評価であった。代表的な自由意見として「どの先生も子供たちに愛を持って接してくださっていると感じます」「いつも子ども達を愛情たっぷりで見守ってくださいます」「少人数だからこそ、園児一人ひとりに丁寧に寄り添って対応してくださっていると感じます」等であった。

17評価項目別の満足度は、
 100%の肯定的な「はい」回答項目は7項目41%、
 90%台の項目は6項目35%、
 80%台の項目は2項目12%、
 70%台の項目は1項目6%
 50%以下の項目は1項目6%であった。
 80%以上「はい」肯定的な回答項目が項目で全体の88%にあたり、項目別にも大変高い評価であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	13	0	0	0
「はい」回答100%で極めて高い評価であった。代表的な意見は「家ではさせてあげられない製作遊びや集団での生活を通して心も体も成長させてもらっています」「成長してると思う事が多いです」等であった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	13	0	0	0
「はい」回答100%で極めて高い評価であった。代表的な意見は「園での遊びや食べたものなどについて、家でずっと話しています。園でした遊びを家で再現しようとする事もあり、とても楽しいようです」「家ではできないような体験(染め物、畑など)を沢山させて頂き、子供の成長に合わせて工夫した遊びなどを取り入れてくださっている」等であった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	13	0	0	0
「はい」回答100%で極めて高い評価であった。代表的な意見は「バランス良く、とても美味しそうです」「家だと食べないのに保育園だと食べてるので、とても有り難いです」等であった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	12	1	0	0
「はい」回答92%、「どちらともいえない」回答8%で大変高い評価であった。代表的な意見は「天気が許せば毎日お散歩に連れて行ってくれます」「保育人数が少ない分、小学生の職業体験などを取り入れ、保育園外や地域との関わりを積極的に持たせてくれる」「コロナや夏の暑さで外出や人数制限等がある中で、やれる事を考えてくれると思います」等であった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	10	1	0	2
非該当回答の2名を除くと、「はい」回答91%、「どちらともいえない」回答9%で大変高い評価であった。代表的な意見は「とても理解があり、優しい声を掛けてもらえて大変ありがたいです」であった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	10	3	0	0
「はい」回答77%、「どちらともいえない」回答23%であった。代表的な意見は「予想外の行動でいつ怪我するか分からない子供を、色々と注意して見ていると思います」であった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	12	1	0	0
「はい」回答92%、「どちらともいえない」回答8%で大変高い評価であった。代表的な意見は「土日に開催なので参加しやすいです」であった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	12	1	0	0
「はい」回答92%、「どちらともいえない」回答8%で大変高い評価であった。代表的な意見は「時間が許されるならば先生ともっとたくさんお話ししたい」「お迎えの時や連絡帳で、何かあると教えてください」等であった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	13	0	0	0
「はい」回答100%で極めて高い評価であった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	13	0	0	0
「はい」回答100%で極めて高い評価であった。代表的な意見は「園児一人ひとりに丁寧に寄り添って対応してくださっている」であった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	12	0	0	1
「はい」回答92%で大変高い評価であった。代表的な意見は「丁寧に説明してくれます」であった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	0	0	5
経験がない非該当に回答された方を除くと「はい」回答100%で高い評価であった。代表的な意見は「こまめに情報共有していただける」「親の考えもよく聞いて、家と保育園で連携をとって対応してくれている」等であった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	13	0	0	0
「はい」回答100%で極めて高い評価であった。代表的な意見は「先生方の関わりが家での参考になる」「いつも子ども達を愛情たっぷりで見てくれる」等であった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	11	0	0	2
「はい」回答85%で高い評価であった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	11	0	2	0
「はい」回答85%、「いいえ」回答15%であった。代表的な意見は「毎日丁寧に連絡帳に保育園での様子を記載してくれています」「その日の保育状況の写真を見られて嬉しいのですが、毎回ブログにして頂けるとより嬉しいです」等であった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	12	0	0	1
「はい」回答92%で大変高い評価であった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	6	3	1	3
「はい」回答46%、「どちらともいえない」回答23%。「いいえ」回答8%であった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	職員会議の初めに保育理念を唱和し、理念・方針を基に会議を進めるように努めている 「育ちのチカラが輝く、心ゆたかな未来をつむぐ」保育理念、保育方針、保育目標をホームページ、重要事項説明書、パンフレット、園内玄関等に掲げ、職員は入社時の研修や社内研修などで理解を深めている。園では職員会議の初めにを唱和し、理念・方針を基に会議を進めるように努めている。また、年間・月間指導計画や週・日案に保育理念を具体化し、実践・評価・反省することで理解を深める様に努力している。保護者には見学の際に提示物やパンフレットで説明し、また、実践内容は園だよりや日々の連絡帳などで伝え、懇談会や個人面談で説明している。 保育理念に基づいて園目標を設定し、リーダーシップを発揮している 保育理念・方針・目標の基に園の目標として「保護者満足度のUP」「挨拶・気遣い・心配りでチーム力UP」を設定して、職員会議で毎月取り組んだことを確認している。さらに園目標の充実を検討し保育内容は「子どもの声を聞き、こどもの思いに寄り添い、主体的に遊ぶ姿を見守る保育」働きやすい職場目標として「お互いの価値観を認め合い、働く職員の満足度UP」保護者支援の目標は「利用満足度のUP」と定め計画内容を検討している。運営は今後職員の主体性を尊重した民主的なリーダーシップをテーマとして努力している。 園内の案件は職員会議や昼礼など各会議で検討し決定している 本社での決定事項は昼礼や職員会議の中で周知し、園内の案件は職員会議や昼礼で検討している。会議としては職員会議、昼礼、乳・幼児会議、給食会議、非常勤会議があり、各会議ごとで目的に沿って話し合っている。会議に出席できない職員にはクラスノートの記載や昼礼ノート、会議録を通じて周知を図っている。保育理念や園目標に基づいて、各クラスの保育内容や行事などの活動は全職員が同じ方向性で共通の認識で働けるように進めている。緊急を要する案件は毎朝、昼礼等に対応し、ノートを確認する習慣を徹底している。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半年・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>厳しい条件を把握して、存在価値の高い地域に選ばれる園を目標にしている</p> <p>園を取り巻く環境条件とし、少子化・地域待機児童ゼロ、競争激化など厳しい環境条件があり、存在価値の高い地域に選ばれる園を目標にしている。保護者ニーズはアンケートや日常の会話より把握し、保護者満足の向上に向けて努力している。職員ニーズは会議や日常会話より把握し、職員意見の反映、役割の明確化、フィードバック、助言など遣り甲斐のある職場づくりに努めている。地域ニーズは区の園長会や地域保育園懇談会に出席して情報共有し、園の運営に反映している。</p> <p>中期事業計画に沿って単年度事業計画を設定し毎年振り返っている</p> <p>中期事業計画を策定し、3か年の計画を見据えて単年度事業計画を設定し毎年振り返って事業報告書を作成している。事業計画としては、保育理念、保育体制、指導計画、保健計画、職員研修計画、行事予定、安全管理等が計画されている。保育内容は全体的な計画を職員と一緒に策定し、各クラスの年間指導計画や月間指導計画、週案・日案に反映している。職員研修計画はキャリアに沿って、フォローアップ研修、リーダー研修、主任・副主任研修など階層別研修、知育・体操など職務別研修に参加し視野拡大を計画している。</p> <p>事業計画の進捗は職員会議で理念の共有の基に確認している</p> <p>事業計画等の進捗確認は職員会議で行っている。職員会議では保育理念・方針・目標を唱和し、理念を核に各クラスの月間指導計画を持ち寄り、クラスで取り組んだことを振り返り、評価・反省し次月に反映する様にしている。保健計画・食育計画・行事計画・安全計画も同様に職員会議で進捗状況を確認し、次の計画に反映している。さらに、理念を実践する事業計画として、保育理念の目指すべき保育内容について全職員で話し合いを継続し、さらに、地域で一番存在価値のある園を目指す計画を盛り込むように期待する。</p>		

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

職員が守るべき規範等は運営ガイドラインに規定し、研修等で周知・徹底している

職員が守るべき法・規範・倫理等は運営ガイドラインに規定し、新人研修、フォローアップ研修等で全職員に周知し、また、職員会議にて読み合わせ、理解を深めている。運営ガイドラインには保育理念・方針・目標、倫理綱領、服務規程(基本ルールや言葉づかいなど保育者の心得)、子どもの人権(保育所保育指針、憲法、児童福祉法、児童憲章、子どもの権利擁護条約など)、虐待防止、個人情報保護方針等が規定してある。法・倫理の遵守はコンプライアンスコードが配布され、GRC研修を年1回実施し徹底している。

保護者の意見・要望は日々の昼礼で共有して迅速に対応している

苦情解決制度を入園時に説明し、フローチャートで分かり易く玄関に掲示してご意見箱を設置している。保護者の意見・要望は日常の会話や個人面談、連絡帳、意見箱、年1回の利用者調査、行事後のアンケート、運営委員会等で収集し、改善策を検討し毎日の昼礼で話し合い迅速に対応している。虐待に関する防止対策として、人権擁護のためのセルフチェックリストを年1回、自己評価チェックを年2回実施し、園内研修も行い意識付け図っている。万が一、園児の虐待が確認された時には区と家庭支援センターと連携して支援に当たる様になっている。

園の透明性を高め、職業体験や保育所体験など地域貢献に努めている

園の透明性を高める取り組みとしては、ホームページに保育理念・方針等と共に保育内容を掲載し、また、第三者評価を受審し結果を開示している。玄関には閲覧ファイルを置き、事業計画書、事業報告書、運営委員会議事録を開示している。地域連携として、ボランティアを小中学校から受け入れ職業体験を実施し、その他、地域園との交流保育、子育てイベント・保育所体験、育児相談など実施し地域貢献に努めている。また、区私立園長会や地域懇談会に参加して地域の課題を共有し、当園の出来る事で地域貢献するように努力している。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>優先順位の高いリスクを想定しマニュアルに基づいて研修して事故防止に努めている</p> <p>すべての事故防止に努めているが、特に優先順位の高いリスクとして、SIDS乳幼児突然死症候群、誤嚥、誤飲、食物アレルギー等を重視し、運営ガイドライン、対応するマニュアルに基づいて研修をして事故防止に努めている。事故発生事例はその都度原因と対策を徹底し、ヒヤリ・ハット報告、事故怪我報告等の集計等に基づいて話し合い、注意力を高め事故防止に努めている。感染症は流行時に感染拡大を防ぐために職員間・保護者への連絡・周知を徹底し、消毒・手洗い・換気などの徹底を行っている。</p> <p>毎月防災、年1度水害・不審者想定避難訓練を実施している</p> <p>防災対策として防災訓練計画を立て、毎月、地震や火災、年1度水害・不審者想定避難訓練を実施している。広域避難場所・一時避難場所を掲示し、年1回は引き渡し訓練を実施している。また、年2回消防用整備点検実施者より消火器を使用した消火訓練を実施している。法人でBCP事業継続計画を作成しているが、当園のBCP計画は作成中である。早期に完成し、計画に基づく訓練を実施し、見直し実践的な計画に修正する様に望みたい。</p> <p>GRC研修を受け、情報管理を徹底している</p> <p>情報管理については、年1回GRC研修(ガバナンス・リスクマネジメント・コンプライアンス)を受け、情報流失や個人情報保護に対する知識を再認識する様にしている。園児の情報書類は事務所の鍵付き書庫に保管し、必要な時は直ぐ分かるように分類・ファイリングしている。職員に関する情報は園長デスクの鍵付き棚で保管している。重要な情報が入っているPCは園長のみが使用し、その他PCはパスワードで制限を行い、常勤職員のみが管理している。セキュリティソフトにより情報漏洩は厳密に防ぐように努めている。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

新人は入職前研修と年3回のフォローアップ研修、サポーター制度で丁寧に育成している

人材の確保は本社で養成学校や大学と信頼関係を構築し、毎年新人を採用している。また、ホームページや職員の紹介等からも採用している。新人は入社前研修を受け、企業理念、保育理念・方針・目標など法人が大切にしている考えを学び、その後年3回の新入社員研修及び専門性を高めるためのフォローアップ研修、給食従事者研修を受け育成をしている。園では先輩職員がサポーターになり、話しやすい・相談しやすい環境のもとで個別育成を図っている。サポーター職員には新人サポーター研修があり新人と共に成長している。

職員はキャリアパスに沿った豊富な研修を受け保育能力の向上を図っている

職員は期待役割シート(役割別)、保育士自己評価表で自己評価し目標を設定して、期待役割面談を受け、個々の役割と目標を話し合い育成している。本社での研修体制が充実しており、フォローアップ研修、中堅社員研修、リーダー研修、副主任・主任研修、給食従事者研修、えほん研修、知育研修、体育研修など階層別研修・職務別研修を受講している。また、都のキャリアアップ研修に参加し、園内研修は外部研修の参加者の共有研修を実施している。

働きやすい職場づくりに努めているが一層努力する必要があると思われる

働きやすい職場づくりとして、有給休暇を取得できるようにシフトに反映し、労働時間や残業時間の短縮、負担の改善・声掛け相談、日々のコミュニケーション、個人面談、悩み共有と助け合う風土づくり、園目標の共有等に努めている。保育内容と保護者支援の充実に力を注いで成果は保護者アンケートで確認できるが、職員の働きやすさの点は一層努力する必要があると思われる。日々のコミュニケーションを一層高め、職員の話をよく聞き、互いの長所と成長を認め合う仕組みの構築、各職員の弱点は助け合い補い合う職場づくりを望みたい。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

(人材育成)

新人は入社前研修を受け、企業理念、保育理念・方針・目標など法人が大切にしている考えを学び、その後年3回の新入社員研修及び専門性を高めるためのフォローアップ研修等を受け育成をしている。園では先輩職員がサポーターになり、話しやすい・相談しやすい環境のもとで個別育成を図っている。サポーター職員には新人サポーター研修があり新人と共に成長している。職員は期待役割シート(役割別)、保育士自己評価表で自己評価し目標を設定して、期待役割面談を受け、個々の役割と目標を話し合い育成している。本社での研修体制が充実しており、フォローアップ研修、中堅社員研修、リーダー研修、副主任・主任研修、給食従事者研修、えほん研修、知育研修、体育研修など階層別研修・職務別研修を受講している。また、都のキャリアアップ研修に参加し、園内研修は外部研修の参加者の共有研修を実施している。

目標の設定と取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

研修体制は充実しており、職員はキャリアアップに従って必要な研修を受け視野の拡大を図っている。研修の実践や保育理念の実践に努めているが、保育実践の振り返り、話し合いの機会を充実し、職員の主体性や創造力の発揮を強化する必要があると思われる。働きやすい職場づくりとして、有給休暇を取得できるようにシフトに反映し、労働時間や残業時間の短縮、負担の改善・声掛け相談、日々のコミュニケーション、個人面談、悩み共有と助け合う風土づくり、園目標の共有等に努めている。保育内容と保護者支援の充実に力を注いで成果は保護者アンケートで確認できるが、職員の働きやすさの点は一層努力する必要があると思われる。日々のコミュニケーションを一層高め、職員の話をよく聞き、互いの長所と成長を認め合う仕組みの構築、各職員の事情や弱点は助け合い補い合う職場づくりを望みたい。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

(事業計画)

園を取り巻く環境条件とし、少子化・地域待機児童ゼロ、競争激化など厳しい環境条件があり、存在価値の高い地域に選ばれる園を目標にしている。計画として中期事業計画を策定し、3か年の計画を見据えて単年度事業計画を設定し毎年振り返って事業報告書を作成している。単年度事業計画としては、保育理念、保育体制、指導計画、保健計画、職員研修計画、行事予定、安全管理等が計画されている。保育内容は全体的な計画を職員と一緒に策定し、各クラスの年間指導計画や月間指導計画、週案・日案に反映している。職員研修計画はキャリアに沿って、フォローアップ研修、リーダー研修、主任・副主任研修など階層別研修、知育・体操など職務別研修に参加し視野拡大を計画している。

目標の設定と取り組み	<p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</p>
取り組みの検証	<p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
検証結果の反映	<p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

事業計画等の進捗確認は職員会議で行っている。職員会議では保育理念・方針・目標を唱和し、理念を核に各クラスの月間指導計画を持ち寄り、クラスで取り組んだことを振り返り、評価・反省し次月に反映する様にしている。保健計画・食育計画・行事計画・安全計画も同様に職員会議で進捗状況を確認し、次の計画に反映している。さらに、理念の実践計画として、保育理念の目指すべき保育内容について再度全職員で話し合い、優れた他園の見学も行い、保育内容のレベル設定も話し合い、一層、地域で一番存在価値のある園への計画を具体化する様に望みたい。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	サブカテゴリ-1の講評	
	<p>利用希望者の見学には子どもの活動状況など写真を掲示し丁寧に説明している</p> <p>見学会は月に2回設定し、電話予約で受け付けている。主に園長が対応し、子どもの毎日の活動の様子を写真掲示で分かりやすくアピールしている。園内の周辺地図に合わせた近隣公園散歩コースの写真や毎月のクラス毎の楽しい食育活動の写真掲示で毎日の生活がイメージできるよう工夫をしている。延長時間や夕食、補食の用意が有り、柔軟に対応していることなども伝えている。土曜日の利用状況も知らせ、個々に合わせた質問にも答えている。見学後のアンケートでは保育士の手厚い配置、子どもが安心して生活する環境が伝わるなどの声が多く聞かれている。</p> <p>利用者が保育園を選択するための情報をホームページなどで分かり易く提供している</p> <p>「あそびが学びに、学びがあそびに」を掲げ「育ちの力」を輝かせる保育を謳い、保育方針、オリジナルプログラムを提案している。保育の考え方を詳しく掲載し主体性を育む体験やご家庭サポート安心安全への取組み、地域・社会との繋がりがりなど見やすく写真入りで具体的に説明をしている。ブログで活動の紹介をしたり保護者の声も載せている。選択するに当たって、当園の基本情報、開園時間、募集状況、1日の流れや年間行事、ご家庭で用意する物も詳しく掲載している。見学会や地域支援への誘いも有り必要に応じての訪問の機会も伝えている。</p> <p>園の情報を行政や関係機関、地域に発信し協力体制の構築に努めている</p> <p>基本情報は園のホームページ、区の公式ホームページ内で提供をしている。保育理念や保育方針、目標や定員数など。保育士の人数や平均保育経験数も記載している。支援センターや内科医、歯科医には健康観察を依頼し相談体制を作り協力を得ている。子育てイベント、園見学のポスターを町内掲示板に添付し募集をかけた。商店街にも魚屋さんや肉屋さんにも掲示の協力をお願いしている。絵本の利用で図書館を訪問したり、小中学生の職場体験当たっての話し合いを学校側としている。区の園長会や消防署、警察署にも広報に勤め協力体制を構築している。</p>	

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p>入園開始にあたっては保護者への丁寧な説明で同意を頂いている</p> <p>入園時前の面談では事前に渡してある重要事項の説明書の読み合わせを行ない、園長、担任、栄養士に分け、時間をかけて保護者の質問や不安を細やかに聞けるよう対応して同意を頂いている。また、提出用の書類の記載を確認しながら、家での様子を聞き取り意向の把握にも努めている。入園までの生活状況など、必要に応じて延長保育や慣らし保育の目安など丁寧な聞き取りを心がけている。外国籍の方には面接の中で手振りや伝え、持ち物を見せたり、入園前健診の医者への案内や記入の手助けを行なっている。個人情報の取り扱い承諾書も頂いている。</p> <p>入園開始時には親子の不安やストレスが軽減されるような配慮を心がけている</p> <p>入園前の面接では慣れ保育の進め方を家庭や仕事の状況と合わせながら進めている。日々の様子を連絡ノートや口頭で細やかに説明し、保護者が安心できるような慣れの様子を伝えている。子どもと共に不安を感じていることを受け止め一人ずつに丁寧に応じている。入園1ヶ月近く、登園時に泣いていた子には気持ちを尊重しながら友達と過ごす楽しさを味わえるような環境を用意し、少しずつ不安をとり除き、好きなことを見つけ楽しい経験を重ねて行くことで慣れていったという例も見られている。慣らし期間は水分の補給が出来るかどうかを目安に考えている。</p> <p>終了時には子どもや保護者の不安が軽減できるよう継続性に配慮した対応に努めている</p> <p>転園時には必要に応じて個人面談を行っている。環境が変わることに対して不安を抱えている場合は、今の子ども様子を細やかに伝え、保護者を通して転園先に、子どもの園生活の様子を伝えて頂けるようにサポートしている。年長児が在園している年度は小学校との連携を取り、指導要録の提出をしている。就学に関する自治体からお知らせを配布し、年明けに個人面談を行ない、保護者の就学に向けて不安なことや就学までの準備、取り組めることを確認し合っている。</p>		

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

13/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(00000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(00)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

全体的な計画や子どもの実態を捉えた指導計画を作成している

全体的な計画は園の理念や方針、目標を掲げ、保育指針を参考に3月に職員参加で策定している。各年齢の計画はそれを落とし込み、その年、月の子どもの発達や興味に沿って目標を立て、ねらいを置き、養護と教育、食育や健康、子育て支援、異年齢交流などに区分作成し、週、日案まで繋いでいる。週日案は子どもの興味や天気、0歳児の午前睡の状況によって柔軟に対応、変更し、赤字で修正している。子どもの関心に合わせた室内の見直しなど毎月の振り返りは会議で行ない共有し、次月へと繋いでいる。クラス便り、参観の懇談会時に保護者にも伝えている。

クラスや子どもの状況の変化、成長を常に捉え記録し全体で共有している

日々の状況は口頭や連絡帳で保護者とも確認し合い、昼礼で共有している。月の様子は会議でクラスや個々の姿も振り返り、アドバイスなどを受け翌月へ繋げている。0～2歳児は個別の月案でも成長を捉えている。全園児の発達の様子は個々に児童票や経過記録と共に綴られ、健康診断、体重測定や身長記録、健康調査票と共に作成されている。一人ひとりの成長はクラスでの関わりや、異年齢での関わり、クラスでの活動や遊びにまで幅を広げて話し合い確認し合っているがその様子を週、日案、月案の振り返りなどへ記録しておき次の過程へと繋いでいきたい。

個々の「育ちの力」の事例を持ち寄り、園内研修を望みたい

子どもの様子は、日々、連絡帳や昼礼などを通し、しっかりと共有できている。月案を振り返る機会を持ち、他クラスと共有する仕組みになっているので園全体が一人ひとりに寄り添えている。職員全員が子どもに関わる物、関わる事を共有できるよう、回覧の方法をとり非常勤職員も含め全員がチェック、確認出来るよう工夫している。さらに個々の成長の事例を持ち寄り、子どもの持っている「育ちの力」が輝いた瞬間など成長をリアルタイムで確認し、感動や喜びを共感し話合中で、保育の大切さを皆で実感しつつ、質の向上を図っていきたい。

サブカテゴリー5

5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
---	--------------------	-------------------	-----

評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
------------------------------	--	--------

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当

評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
--	--	---------

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当

サブカテゴリー5の講評

保護者に個人情報保護方針について説明し、納得を得たのち捺印してもらい保管している

全保護者に配布する重要事項説明書に個人情報の利用目的、安全管理、情報の提供と開示等の情報の取り扱いについて詳しく記載されている。入園時には重要事項説明書を基に個人情報の取り扱いについて丁寧に説明し、納得を得たのち署名捺印をもらい保管している。画像や動画の使用については別途承諾書を交わしており、配慮を希望する場合は後ろ姿や顔が映らないよう工夫しながら保育内容や子どもの姿が保護者に伝わるようにしている。職員は運営ガイドラインに基づき、個人情報の適正管理について理解している。

職員は子どもの持つ羞恥心の重要性を認識し、プライバシーに配慮した保育を行っている

幼児は気になったときに自分のタイミングで服を着替える事となっており、着替えが必要になった時には子どもの顔が出る高さの手作りの仕切で囲われた更衣コーナーを使用している。服は上下順番に着替えるといった「着替える方法」を子どもたちに伝え、自分で自分の体を守るようにしている。幼児のトイレは個室になっており、羞恥心に配慮されている。おむつを使用している子どもは部屋の端の仕切りの中で声をかけながら丁寧に交換し、仕切りの無い乳児用トイレを使用する子どもたちは他児と重ならないよう個別にトイレに誘う等の配慮をしている。

子どもに対して適切な保護と養育、教育を受ける権利を保障できる取り組みをしている

「運営ガイドライン」を基に、人権擁護や虐待防止などの園内研修を実施し、不適切保育の防止にむけ、職員の共通認識を図っている。子どもの人権擁護のためのセルフチェックリストを年1回、自己評価チェックを年2回実施している。また、「子どもの人権に配慮して保育を行っているか」といった視点で保育を振り返っている。さらに、全職員が個々の子どもの心身の状態や家庭での生活、養育状態等を把握し、家庭環境を考慮した関わりをしている。万が一園児の虐待が確認された時には正確迅速に専門機関と連携が図れるようフローチャートを掲示している。

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(00)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
保育方針や安全管理など基本事項が整備され、園としての考え方が示されている 企業理念、保育方針、服務規程、子どもの人権、虐待、危機管理、保育の手引き、個人情報保護方針、子育て支援等が「運営ガイドライン」にまとめられており、いつでも閲覧できるようになっている。保育の手引きは、子どもの一日の流れに沿って、あいさつの仕方から、視診、見送り、子どもの気持ちを受け止めるまで詳細に明記されている。また、子どもの生活の部分では質の高い養護と教育になるよう、職員の心構えや手順、生活習慣の確立や行事の在り方等について示されており、経験年数にかかわらず園が目指す保育サービスが行えるようになっている。		
重要事項は年に一度園で見直し、本社に報告し検討の上、変更する仕組みがある 入園時には、子どもを安心して保育園に預けてもらうよう「Gakkenほいくえん生活の手引き」を配布している。手引きの中には保育理念や保育方針、安全管理や保育時間、個人情報保護方針などの重要事項が記載されている。運営していく中で、保護者に周知している重要事項の内容に変更すべき箇所が出た場合は12月から1月にかけて本社に報告するようになっている。今年度は感染症に関する「登園届」を区指定のものへと変更し、各家庭に配布した。社会情勢や状況の変化などにより、適宜変動し適切な状態になるよう変更する仕組みが整っている。		
園では常にサービス水準が保てるよう園内研修の実施や本社の研修を受講している 運営ガイドライン、対応するマニュアルがある。マニュアルは子どもの取り残しなど他園の事故事例を基に同様の事故を発生させないための内容となっている。園ではガイドラインやマニュアルに基づき時季に合わせて園内研修を行い注意事項を再確認している。本社の安全だよりの活用や、全職員対象の保育安全クイズに参加し、職員が回答し答え合わせをすることを通して安全への理解を深め、サービスや危機管理意識の向上が図れるようにしている。園の一定のサービス水準を保てるような取り組みを継続的、安定的に実施している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している
評価項目1の講評	
<p>子どもの「やりたい」に共感し、温かく見守り声をかけ、主体性を育む保育に努めている</p> <p>子どもの発達や興味に合わせ「やりたい」意欲や「何だろう」と探求心がわくような環境を整え、日々、保育に努めている。また、仲間との関係の中で、学び合い育ち合える関係作りを考え、一人ひとりに関わっている。0歳児のつかまり立ちの時期には手作りの盾につかまっの引き抜き玩具が用意されている。足腰、手の働き、触感など身体の発達と感性を高めながら意欲を引き出す関わりが見えている。そこでの保育士の声掛けや拍手はさらなる意欲に繋がり、立つ、引っ張るの動作を再現し、周囲の子ども達まで波及し個々の主体性を育む保育へと繋いでいる。</p> <p>子どもが自発的に生活がしやすい空間となるよう室内の工夫に配慮している</p> <p>室内は生活動線が難しい設計であるが子ども達がわかり易い絵の掲示や衝立を置いた遊び空間、物の位置関係を工夫して子どもが自身の生活となるよう進めている。玄関では迎え時に親子で楽しく話ができるよう絵本棚をしつらえ、写真の掲示もしている。また、行事とタイアップして装飾している。0歳児はパーテーションで仕切り、発達を見据えたおもちゃの配置で興味を高め楽しい生活を生み出している。2歳以上は同じ空間にいて3歳以上児と影響し合いながら過ごしている。手洗い手順が分り易く張られた水道やトイレは自発性を高めている。</p> <p>一人ひとりが互いを尊重し合えるよう、気持ちに寄り添い援助している</p> <p>戸外での散歩や畑作り、室内遊び、2歳児以上の室内空間では自然に異年齢交流が行なわれている。小さい子へのいたわりや大きい子への憧れは自然と芽生え遊びも加わり文化として根付いている。少人数の3、4歳児は生活を共にし影響し合って毎日を過ごしている。遊びや活動、行事などは話し合っ折り合う中で進めている。保育士は見守り、トラブルが起きたときには仲立ちをして双方の気持ちをくみ取れるような援助をしている。外国籍児や配慮が必要な子にも分け隔てなく接することで子ども同士も意識を持たずに過ごし、思いやりの心を学んでいる。</p>	

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登園時は家庭での子どもの様子を保護者に確認し、連続性に配慮した保育を心がけている
朝の受け入れ時は玄関で対応し、子どもの様子を確認している。視診で気づいた虫刺されやあざなど見つけたときは必要に応じていつ、どこで?の確認をしている。朝当番はノートに書き込み、昼礼で報告し共有している。必要に応じて担任には口頭でも連絡をしている。日中の様子は連絡帳アプリで保護者に伝え、こどもの体調に変化がある場合は電話を入れるよう様にしている。昼からの様子も昼礼ノートで引き継ぎ、迎え時まで運用している。延長保育時の必要案件もノートが次の朝当番の時まで引き継がれ、連続した子どもの生活の安全性を保っている。

発達の状態に応じ、基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につけるよう関わっている
0歳児は離乳の進み方について月に2度は面談を行ない進捗を確認している。園での喫食状況を伝え家庭での状況を聞きながら一緒に進めている。排泄も清潔を保ち、1、2歳児頃を目安に体の発達具合と重ね、尿意を感じるようになっていくかどうか観察をしてトイレに興味のある子どもから連れて行くようにしている。他の子のトイレを見て誘われるので出来るだけトイレへの動線に配慮出来ると良い。衣類は「自分でやる」という気持ちを引き出し、見守りながら、手助けをしている。午睡は個人差に配慮し体をさすって安心して入眠しやすいようにしている。

降園時は写真掲示も含め子どもの一人ひとりの様子を直接口頭で伝えている
担任以外でも伝達が細やかに行えるよう、心がけている。昼礼後の様子は昼礼ノートを使って連携を図り、当番はそれを見て、日中の出来事、擦り傷や発疹などの報告もどのような場面でおきたかなどしっかりと伝える事が出来ている。ICTシステムが導入されているので子どもの様子も即、伝わり、保護者との連携は円滑に行なわれよう体制を整えている。その日の活動の様子の掲示も楽しみの一つになっていて、子どもの笑顔や友達との遊び、楽しい保育所が映し出されていて保護者に安心感を届けている。

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

子ども達の知的好奇心を刺激し主体性を育む遊び体験に取り組んでいる

法人のコンセプトに「あそびが学びに学びがあそびに」を掲げ「育ちのチカラ」を輝かせる良質で豊富な体験の出来る環境作りを謳っている。毎日の公園への散歩、野菜作りや表現遊び、身体を鍛える体育遊び、季節の行事や美味しい給食、地域の人との出会いなど楽しい、面白い、やってみたいという好奇心を刺激し主体性を育む遊び体験に取り組んでいる。制作活動では様々な手法を導入、季節感を表現し、絵の具なども年齢に合わせて使っている。水に溶ける不思議や滲み絵を体験、バスボム作りにも夢中になって取り組む姿に生き生き笑顔が見られている。

戸外、園外活動では季節を感じ感性を高め、健康な心と体を育てている

近隣には公園や広場が多数あり、子ども達は天気の良い日は毎日散歩に出かけている。畑作りにも夢中で、好奇心や探求心を育てている。良い季節に様々な発見や興味を引き出し、蟻やダンゴムシ、花や葉っぱ遊びに繋がっている。地域の特性で公園での水遊びや砂遊びも楽しめ夏の遊びも十分にし、心が開放される体験もしている。ブランコやすべり台などの遊具にも出会い、身体の発達を助長している。広場では鬼ごっこやボール遊びをして3・4歳児が保育士と一緒に自信が持てるよう遊びきっている姿も見られてる。畑での丸ごと体験は食育にも活かされている。

子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、自信を持って想いが伝えられるよう関わっている

絵本を導入し読み聞かせをしたり、季節の歌を歌い、簡単な手遊びを行なう等、言葉に対する感覚が養えるよう関わっている。0歳児は子どもの表情や態度を受止め気持ちを代弁したり、話しかけをしている。1歳児以降は言葉で話すときには、目を見て共感する事で満足感が感じられるようにしている。3・4歳児は1日の流れや行事の取組みなどについても子ども会議で話し合い、自信を持って発表することが出来るよう援護している。「貸して」「まだ、使っているよ」「どうぞ」「ありがとう」等遊びの中でも場面に応じた言葉を発信できるよう関わっている。

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

季節の行事を楽しく伝え、園生活がより豊かになるように年間計画を策定している

毎月のお誕生日会に加え、伝承文化を伝える、こどもの日や、七夕会、夏祭り、敬老の会、お芋掘り、作品展、クリスマス会、新年お楽しみ会、雑祭り、節分など年間を通して計画している。手型鱗の大きな鯉のぼりや笹に飾り付ける七夕制作、アイデアに富んだ雑祭りや的当て感覚の節分は玄関に飾り、楽しい雰囲気子ども達や保護者の目を楽しませてくれる。敬老会はクラスよりの手紙で遠くの祖父母に親しみを送り、作品展は保護者参観で日頃の創造性を発揮する絵本の世界を創り上げ、クラス毎に発表し合うクリスマス会もあり、楽しい生活を演出している。

運動会などの行事は「子ども主体」に楽しく進められよう取組み方に工夫している

行事の担当者を中心に事前の打ち合わせを数回行ない、意見を集約しながら進めている。運動会は保護者と共に成長を確認し合う機会と考え、クラスで子どもの興味や発達を考えて取り組んでいる。幼児クラスは、子ども会議にかけ、「何をしたいか」話し合いで進めている。当日は子ども達の大好きなダンス、エビカニクスや体操を選択し楽しむことが出来た。幼児は開会閉会の挨拶にどきどきしながら挑戦し2歳児は保護者とともに玉入れを親子で楽しむことができた。

子どもが意欲的に取り組めるよう、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている

保護者参観の行事は主に土曜日に実施し、取り組む活動内容は連絡帳や写真掲示を通して知らせている。取り組む姿は保護者の期待となり、家庭での楽しい会話に繋がっている。園内で開催する行事は、保育参加と一緒に作った作品を掲示したり、取り組む様子を玄関の壁に展示しより一層充実感が感じられるように工夫している。幼児クラスにも連絡帳があるので個別の様子を伝えるようにしている。子どもの意欲的な取組みは保護者を巻き込み、行事への良き理解につながっている。

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

広い保育室を乳児、幼児の空間に分け、自分の好きな遊びに集中できるようにしている

延長保育は玄関を入り真正面の広い保育室を使っている。長方形の保育室は仕切りを使い乳児と幼児の空間に分けられている。乳児の空間には柔らかいマットが敷かれており、寝転んだり、保育士を相手にしてゆったり過ごしたりくつろげるようになっている。乳幼児とも自分で遊びたい玩具を選び、集中して遊べるような玩具や絵本が棚に秩序良く並べられている。訪問した日、幼児コーナーでは道路が描かれたプレイマットの上で車を走らせ、夢中になって遊んでいた。就労の関係で補食や夕食が必要になった時には遊びの部屋とは別の部屋で喫食する。

延長保育は、互の違いを認めながら交流し、楽しく過ごせる時間になっている

月曜日から金曜日までの夕方の延長保育時間は18時00分から20時00時までとなっている。子どもたちは保護者の就労時間に合わせて順次降園するため、人数が少なくなった時には異年齢児と一緒に過ごしている。兄弟以外でも小さい子は大きい子へのあこがれの気持ちを持って遊びを真似し、大きい子は小さい子の世話をしたり優しい言葉がけをするなど、延長の時間は生活習慣や年齢の違いを自然と認め尊重しあう気持ちが育つ時間となっている。異年齢で交流しながら熱中している時には近くで見守るが不安な様子の時には寄り添うようにしている。

一日の多くの時間を保育園で過ごす子どもの様子を保護者に伝えている

朝の受け入れは玄関で行い、担当保育士は保護者から前日の降園後から登園前までの様子を聞き取り、その内容を記録し、担任に伝えている。日中の保育は散歩や室内での運動遊びなど運動量が多くなるよう工夫している。保育の様子は連絡帳で保護者に伝え、保育士は昼礼と申し送りノートで情報共有している。午後から夕方の保育を担当する保育士は固定されており子どもたちは安定した環境の中で一日を過ごすことができる。迎え時も玄関で対応しており、子どもを待つ時間にドキュメンテーションなどで子どもの一日の様子が把握できるようにしている。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

園では、給食は「味覚や食生活の基礎を培う乳幼児期の大切な保育の一環」と捉えている

園は食事は子どもの成長発達の基本であると考え、栄養面、衛生面、安全面に配慮をした給食を提供している。献立は本部が作成し、子どもの状況に合わせて各園でアレンジしている。本園は0、1、2歳児が多いことから一人ひとり月齢や発達段階に合わせて食材の大きさやかたさを調理するなど柔軟性に対応している。また、初めて出会う食材が多い0歳児や新入園児は月2回保護者と離乳食面談を行い家庭と連携しながら味覚や食生活の基礎を培うよう努めている。給食は自分の好きなものを選んで食べられるよう主菜、副菜、デザートを一度に提供している。

食べる喜びが味わえる給食提供のため、栄養士・保育士が知恵や技術を出し合っている

栄養士は毎日給食時間に巡回し、子どもたちが喜んで食べているかを確認して。献立はサイクルメニューとなっており、喫食状況が良くない場合は味付けや配膳の仕方を変えるなど次への改善に活かしている。また、年齢ごとに食への興味や感謝の気持ちが育まれるよう年間の食育計画を基に毎月食育を行っている。幼児クラスは栽培、収穫、調理体験をしている。今年は鈴なりに実ったミニトマトを使いケチャップを作る「クッキング」に挑戦した。乳児クラスも夏野菜を使ったスタンプ遊びや絵本をみた後に実物に触る体験など保育士と栄養士が連携している。

「あそびが学びに 学びがあそびに」のコンセプトを食育にも活かしている

食習慣の基礎は乳幼児期に作られることから食具の持ち方を年齢や発達に合わせて身につくようにしている。食事は楽しく食べさせたいとの考えからスプーン、フォーク、箸の正しい使い方を食事中に指導するのではなく、保育活動の中で身につくようにしている。具体的には牛乳パックを口に見立て、その周りにライオンやウサギなどの動物の顔を貼り、食べ物に見立てたスポンジなどを食具を使って食べさせる玩具があり、栄養士が手作りをしたとのことだ。保育理念のコンセプトに沿って遊びながら正しい食具の使い方や食事のマナーが身につくようにしている。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目7の講評		
<p> 子どもの健康状態を観察し、万が一の事故怪我にも適切に対応できるようにしている 子どもの健康状態について家庭で観察し、健康チェック表に記入、園で毎日確認することになっている。園では全員、昼寝明けに検温し熱のほか便の状態や喫食状況、機嫌なども一人ひとり確認し記録している。また、外科、眼科、歯科など万が一の事故・怪我に対応してくれる病院の一覧表を事務室に掲示しており、子どもの症状や様子によってはすぐに連絡が取れるようになっている。熱中症やアレルギー症状など緊急を要する時は、園長が不在でも全職員が慌てずに緊急連絡ができるよう救急車の呼び方をフローチャートにして電話機の横に備え付けている。 </p> <p> 保護者会や保育園からの便りで子どもの健康を維持するために保健情報を共有している 規則正しい生活が子どもの心と体の成長に重要であることや早起きをすること、朝食を食べる事が子どもの健康維持に大切であることを保護者会や個人面談、保健だよりや園だよりなどを通して具体的に保護者に伝えている。園内で感染症が発生したときや区から感染症に関する情報があつたときには園内に掲示したり通信アプリを活用してタイムリーに情報提供をすることで感染症の拡大防止に努めている。また、感染症罹患後の登園基準や注意事項などは重要事項説明書に詳しく記載されており、登園届、登園許可意見書も添付されている。 </p> <p> 乳児突然死症候群の防止対策について保護者に情報提供し家庭での留意につなげている 乳児の在園が多いことから、SIDSの防止対策に力を入れている。入園前の面談で重要事項説明書の記載と一緒に確認したり、玄関にポスターを掲示し保護者に注意喚起している。0,1歳児クラスにポスターを掲示し職員が常に意識するようになっている。2歳児クラスには学研のガイドラインの「SIDS」を抜粋して掲示している。また、子どもの表情が良く見えるように明かりをつけてつけて午睡し、年齢に合わせた間隔で「午睡チェック」を行っている。園長が午睡の様子を巡回し、子どもの体位や温度、湿度など環境設定を確認し職員の意識を高めている。 </p>		

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

お迎え時に靴を脱がなくても良いようにした配慮は忙しい保護者に喜ばれている

保護者の仕事の都合や事情に合わせて保育時間の延長や補食、夕食の対応ができるよう配慮しており、連絡アプリからも簡単に申請できる。保育の延長は急な残業など保護者の就労に合わせスポットでも、月ぎめでの利用できるようにしている。月ぎめを希望する場合は予定表を提出していただき、園でコピーを取り、保護者と園の双方で利用確認ができるようにしている。延長時間、標準時間、短時間保育、すべての時間の朝夕の子どもの引き取り、引き渡しを玄関で行い、保護者が靴を脱がなくても良いようにした配慮は、特に忙しい保護者に喜ばれている。

子どもの保育園での様子を伝えることで、保護者の仕事と子育ての両立を支援している

在園児一人ひとりに連絡帳があり家庭と保育園とでやり取りし、保護者が子どもの24時間の姿を把握できるようにしている。クラス全体の活動の様子は誰にでもわかりやすいように写真にしてその日のうちに玄関に掲示している。さらに保育士は日中の子どもの姿を昼礼で共有し、担任以外の保育士が保護者に引き渡すときでも、口頭で詳しく説明ができるようにしている。親から離れている間子どもが保育園でどのように過ごしているのかを丁寧に伝えることで保護者が安心して保育園に通わせることができ、仕事と子育ての両立の支援につながっている。

保育参加や行事を通して、保護者の保育の理解向上や保護者同士の交流につなげている

年間行事予定表を4月に配布し、保護者が仕事の調節し、行事に参加しやすいよう配慮している。保護者会、個人面談は年1回、保育参加後に設定し、家庭、保育園双方が同じ場面を見て子どもの成長を確認し今後の子育てや保育に役立っている。さらに、保護者会では子育ての悩みや相談を通じて保護者が自分の体験を出し合う等、交流の場ともなっている。運動会での親子競技では、親と子、親同士、保護者と職員が触れ合いながら信頼関係を深めている。また、保護者は自分の子どもだけでなく他の子どもと一緒に遊ぶ機会となり皆で楽しむ子育てにつなげている。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

散歩等を通して子どもたちが地域に馴染み地域の一員として生活できるようにしている

地域には遊具広場と球戯場からなる浜田山公園をはじめ、浜田山南公園、堂ノ下児童公園など10か所以上の公園があり、そうした地域環境を活かして、ほぼ毎日、散歩を取り入れている。公園に行く途中商店街があり、そこで出会う人や声をかけてくれる人と挨拶をしたり会話するなど、地域の人々との交流が日常となっている。幼児クラスは近隣の保育園との交流の一環として一緒に園庭で遊ぶ機会を設けた。また小学生が夏休みを利用し保育園体験に来るなど地域の様々な人的・物的資源を活用し子どもたちが地域の一員として生活する機会を作っている。

人と人、人と場をつなげ、学びあい、育ちあえる関係の構築に向けた地域交流をしている

園では、人と人、人と場をつなげるためには、子どもが保育者以外の人と交流することが欠かせないと考え、子どもたちの生活に密着した人との交流を取り入れている。勤労感謝の日には幼児クラスが自分たちの食べる魚や肉を届けてくれる「お魚屋さん」や「お肉屋さん」に「いつもありがと」の気持ちを込めたプレゼントを作り届けている。また、地域の消防署の職員とかかわりながら子どもたちが初期消火訓練を体験するなど連携している。警察署には職員の訓練のほか子ども自身が不審者から身を守る訓練をしてもらうなど地域資源を活用している。

地域散歩は「好き」を追及したり「他者とかかわりを楽しめる場」となっている

園から公園までは交通安全に気を付けながら、交通ルールを守り、道の端を歩いていくことを子どもたちに伝えている。子どもたちは、地域の人に声をかけてもらい会話をする中で、言葉を使う楽しさを感じたり地域の人に親しみを持っている。園の近くの公園は子どもたちには安心感があり、虫探しをしたり、風、空、木々や草に触れるなど、体づくりだけでなく保育方針である「好き」を追及する時間、「他者と関わり楽しめる」場となり、保育士にとっては、子どもたちの言葉にならない感動や言葉を受け止め応答する力が育つ機会になっている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	子ども一人ひとりの想いや興味に寄り添う中で自己肯定感を育む保育に努めている	
内容①	<p>余裕のある職員数を配置し、子ども一人ひとりの声を受け止めやすい環境を整えている。毎日の昼礼や会議、職員同士の対話を通して発達や成長を共有し、関わりに役立つよう努めている。全職員が見守る中で安心した生活が送れるよう配慮している。子どもの「やってみよう」をリアルタイムで捉え、見守り、共感し、時には心に届くような関わりで接することで子どもの自己肯定感を育てている。夏祭り時に楽しく遊んだたこ焼きコーナーの再現は、こどもの夢中に視点をあてた面白遊びの再現となり、意欲や自信を引き出す楽しい保育の展開となっている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル②	行事は子ども達皆で考え主体性を高め、協力して達成感を味わえるようにしている	
内容②	<p>夏祭りは保護者参観もかね、保育所の楽しさを皆で味わうことをねらいにした行事で「子ども主体」を念頭に各クラスで内容を考え、幼児クラスは「何をしたいか」など子ども会議で話し合いをしながら進めている。子ども発案の「オバケ神輿を作る」活動などのクラスも行事に向けて、友達と一緒に行動することで達成感につながり、取組みの過程では自然と声を掛け合い、顔をみても共感して楽しんでいる。御神輿作りに始まり、ゲームやオバケ音頭も入り、総合的な活動となって主体性を高め創造力や協調性を養い、親子で楽しく過ごすひとときとなっている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル③	子どもの状況に関する情報は口頭、昼礼、昼礼ノートを介して全職員で共有している	
内容③	<p>毎日の子どもの状況に関する情報は、口頭、昼礼、事務所に置く昼礼ノートを介して行ない、職員全員が共有し、その日の保育に役立てている。登園時の子どもの状況は、知らせノートに記載している。昼例は毎日行い、事故、ケガの報告、保護者からの変更事項など、子どもの様子を共有しノートに記載し、誰でも確認が出来るようになっている。帰りの当番は、引き継ぎ事項をノートで確認し保護者に対応をしている。月案の振り返りを他クラスと共有することや、子どもに関わる情報を回覧方式でチェックする等の仕組みもあり共有化が図られている。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保育理念コンセプト「あそびが学びに、学びがあそびに」を掲げ、子どもの意見を尊重し、遊びから子どもの主体性や創造力など育てている
	内容	保育理念コンセプトとして「あそびが学びに、学びがあそびに」を掲げ、全職員で実践に努めている。毎日の公園への散歩や野菜作り、表現遊び、身体を鍛える体育遊び、季節の行事や美味しい給食、地域の人との出会いなど楽しい、面白い、やってみたいという好奇心を刺激し主体性を育む遊び体験に取り組んでいる。制作活動では様々な手法を導入、季節感を表現し、水に溶ける不思議や滲み絵を体験、パスボム作りにも夢中になり、行事では「子ども会議」で意見を聞き、お化けお神輿を作り、子どもの主体性や創造力、協調性など育てている。
2	タイトル	園では、食事は生きることの源であると考え、味覚や食習慣の基礎を培う乳幼児期の食事を大切にしている
	内容	園では、食事は生きることの源であると考え、味覚や食習慣の基礎を培う乳幼児期の食事を大切にしている。乳児クラスでは初めて出会う食材は味付けを薄くし素材の色、におい、味を残している。また、食育計画を基に毎月、年齢にあった食育を行っている。その様子を写真に言葉を添えた「ドキュメンテーション」として玄関に掲示することで保護者の目に触れ、保護者が食に向き合う機会の提供となっている。四季それぞれの旬の食材を取り入れた給食は、子どもたちに日本の文化を伝えるとともに子どもたちの「育ちのチカラ」の育成につながっている。
3	タイトル	園は子どもの様子を的確に伝えることは保護者に対する支援の第一歩と考え、口頭、Web、紙ベースなど様々な形で保育内容を伝えている
	内容	ホームページに理念や方針とともに保育内容を分かり易く掲載し、園では子ども一人ひとりの連絡帳があり、また、ICTシステムが導入されているので子どものその日の楽しい活動の様子、子どもの笑顔や友達との遊びが映し出されていて保護者に安心感を届け、保護者が子どもの24時間の姿を把握できるようにしている。職員は全員で情報共有し担任以外でも伝達が細やかに行えるよう、心がけ、保護者には具体的なエピソードを通し、成長や状況を伝え共に喜びを共有している。また、就労する保護者に配慮し負担軽減に努めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	働きやすい働き甲斐のある職場づくりに努力しているが、さらに、職員一人ひとりの長所・強みなど認め合い幸せな職場づくりを望みたい
	内容	保護者アンケートの結果は総合満足回答100%満足と大変高い評価を得ている。職員全員で保育内容の充実、保育環境整備、保護者への情報提供など努力したことが保護者に評価された事と思われる。職員の働きやすい働き甲斐のある職場づくりの点では、園目標の共有、子どもの情報共有、行事の簡素化、職員の負担軽減、余裕のある職員配置、有給の取得などに努力している。今後さらに、職員一人ひとりの長所・強み、成長した点、有難うの感謝の声と信頼関係、理念に基づく主体性と創造力の発揮などに努力し、一層幸せな職場づくりを望みたい。
2	タイトル	職員の育成の研修体系は充実している、今後、園内研修で事例で話し合い、保育理念コンセプトをより高度に実践出来るように望みたい
	内容	職員の育成は期待役割シート等で目標を設定して、期待役割面談を受けモチベーションを高めている。研修は充実しており、フォローアップ研修、フォローアップ研修、リーダー研修、副主任・主任研修、給食従事者研修、乳児・幼児研修、知育研修、体育研修など階層別研修・専門研修など受講し視野の拡大を図っている。今後、園内で保育実践の振り返りを事例に基づいて行い、夢中度・安心度評価や学びの推察、環境設定、関わり方などを話し合い、保育理念コンセプト「あそびが学びに、学びがあそびに」をより高度に実践出来るように望みたい。
3	タイトル	地域に開かれた保育園として体験事業等を実施している。更に地域の子育て家庭が気軽に来園できる子育て拠点に発展する様に期待する
	内容	園では保育は大事な社会資源であると考え、小中学生の職場体験の受け入れ、他園との交流保育、子育てイベントの実施、保育所体験、育児相談、出前保育等様々な地域連携に努めている。保育所体験後のアンケートに育児や離乳食に関する質問が記載されているなど、地域には支援ニーズがあるが、参加者が少ないといった課題がある。今後は、力を入れている「食育」等を活かして給食体験や親子クッキング、離乳食作りなど一歩進め、保育園の敷居を低くし、地域の子育て家庭が気軽に来園できる浜田山の「子育て支援拠点」になることを期待する。